

- 高柳伸哉・伊藤大幸・岡田涼・中島俊思・大西将史・染木史緒・野田航・谷伊織・林陽子・辻井正次 (2012). 一般中学生における自傷行為のリスク要因：単一市内全校調査に基づく検討 臨床精神医学, **41**, 87-95.
- Ito H, Tani I, Yukihiro R, Adachi J, Hara K, Ogasawara M, Inoue M, Kamio Y, Nakamura K, Uchiyama T, Ichikawa H, Sugiyama T, Hagiwara T, Tsujii M (in press). Validation of an Interview-Based Rating Scale Developed in Japan for Pervasive Developmental Disorders. *Research in Autism Spectrum Disorders*.
- 林陽子・吉橋由香・岡田涼・谷伊織・大西将史・松本かおり・土屋賢治・辻井正次 (印刷中). Leyton Obsessional Inventory-Child Version (LOI-CV) 日本語版作成の試み 児童青年精神医学とその近接領域
- 林陽子・岡田涼・谷伊織・辻井正次 (印刷中). 広汎性発達障害における強迫関連症状 児童青年精神医学とその近接領域
- 大嶽さと子・伊藤大幸・染木史緒・野田航・林陽子・中島俊思・高柳伸哉・瀬野由衣・岡田涼・辻井正次 (印刷中). 一般中学生における自傷行為の経験および頻度と抑うつとの関連：単一市内全校調査に基づく検討 精神医学
- 高柳伸哉・伊藤大幸・大嶽さと子・野田航・大西将史・中島俊思・望月直人・染木史緒・辻井正次 (印刷中). 小中学生における欠席行動と抑うつ、攻撃性との関連 臨床精神医学
- 内田裕之・辻井正次 (印刷中). 発達障害とともに成人期を生きるということ：ASDとADHDを例に 教育と医学
- 井上雅彦
井上 雅彦 (2011). おもしろきこともなき世をおもしろ録—自閉症を持つ子どもたちの生活を豊かにするための応用行動分析的療育話 金銭管理 アスペハート, **9**, 54-57.
- 井上雅彦 (2011). 家庭で無理なく楽しくできる生活・自立課題36 学研
- 井上雅彦・吉川徹・日詰正文・加藤香 (2011). 発達障害の子どもをもつ親が行う親支援 学苑社
- 井上雅彦 (2011). 応用行動分析 (財)日本知的障害者福祉協会 (編) はじめて働くあなたへ pp. 73.
- 井上雅彦 (2011). ADHD/PDD 合併の指導困難事例を通して—強い行動障害への支援システムを考える 小野次郎・小枝達也 (編) ADHDの理解と援助 別冊[発達] 31 ミネルグア書房 pp. 205-210.
- 井上雅彦 (2011). 解決の鍵を握る保護者との関係づくり 齋藤万比古 (編) 発達障害が引き起こす不登校へのケアとサポート 学研 pp. 148-165.
- 井上雅彦 (2011). 発達障害のある子どもが集団のルールで動けるために 辻井正次 (編) 特別支援教育実践のコツ 金子書房 pp. 112-117.
- 井上雅彦 (監訳) (2011). 家庭・社会生活のためのABA指導プログラム—特別なニーズをもつ子どもの身辺自立から問題行動への対処まで 明石書店
- 井上雅彦 (2011). 家庭内で暴力をふるうアスペルガー障害の子どもへの支援 実践

- 障害児教育, **38(7)**, 44-48.
- 井上雅彦 (2011). 家庭連携のスタートラインは実態把握と信頼構築 実践障害児教育 **38(7)**, 40-43.
- 井上雅彦 (2011). 学齢期から始める就労のための自己コントロールとコミュニケーション(4) 自閉症教育の実践研究, No. 20, 64-65.
- 松尾里沙・金森純平・長谷由香・秦基子・井上雅彦 (2010). 発達障害児のある中学生に対する小集団ソーシャルスキルトレーニングの効果 鳥取臨床心理研究(鳥取大学臨床心理相談センター紀要), 47-51.
- 井上雅彦 (2011). ストレスによる行動を理解し冷静な対応を心がける 実践障害児教育, **38(12)**, 8-11.
- 井上雅彦・岡田涼・野村和代・上田暁史・安達潤・辻井正次・大塚晃・市川宏伸 (2011). 知的障害者入所更正施設利用者における強度行動障害とその問題行動の特性に関する分析精神医学, **53(7)**, 639-645.
- 井上雅彦 (2011). 人間行動分析学への発展のために一言語行動における理論行動分析の臨床場面への応用 行動分析学研究, **26(1)**, 46-50.
- 井上雅彦 (2011). 将来の自立や社会生活のための一人ひとりに合わせたトップダウン型指導 実践障害児教育 **39(5)**, 2-5.
- 井上雅彦 (2011). 児童期の対応とペアレント・トレーニング そだちの科学, **17**, 48-52.
- 井上雅彦 (2011). 行動分析学による自閉症療育におけるエビデンス 臨床心理学, **12(1)**, 16-19.
- 井上雅彦 (2011). エビデンスに基づいた自閉症療育:応用行動分析学に基づくアプローチの成果と課題 小児の精神と神経, **51**, 323-327.
- Inoue, M. (2011). Effectiveness of Group Parent Training for Mothers of Children with Developmental Disorders. the International ABA Conference.
- Inoue, M. (2011). Family support programs of ASD Joint Academic Conference on Autism Spectrum Disorders. 日米自閉症スペクトラム研究会議 日本財団ビル
- 井上雅彦 (2011). エビデンスにもとづいた自閉症療育 日本小児精神神経学会第105回 朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)
- 井上雅彦 (2011). 行動障害の機能的アセスメントと具体的対応 日本発達障害学会第46回研究大会 鳥取大学(鳥取市)
- 角南なおみ・井上雅彦 (2011). 他者の目が気になることを主訴としたアスペルガー症候群のある不登校生徒への支援 日本発達障害学会第46回研究大会 鳥取大学(鳥取市)
- 井上雅彦 (2011). 自閉症スペクトラム児への早期行動集中介入(E I B I)の効果 日本自閉症スペクトラム学会第10回記念研究大会論文集 名古屋経済大学(名古屋国際会議場)
- 井上雅彦 (2011). 我が国におけるペアレント・メンター活動と展望 日本自閉症スペクトラム学会第10回記念研究大会論文集 名古屋経済大学(名古屋国際会議場)

- 井上雅彦 (2011). 特別支援教育のための行動コンサルテーションの成果と課題 日本自閉症スペクトラム学会第 10 回記念研究大会論文集 名古屋経済大学(名古屋国際会議場)
- 井上雅彦 (2011). 東日本大震災の障害児・者支援の状況と課題 日本行動分析学会第 29 回年次大会発表論文集(早稲田大学戸山キャンパス)
- 井上雅彦 (2011). 強度行動障害に対するスタッフトレーニングとコンサルテーションの効果 日本行動分析学会第 29 回年次大会発表論文集(早稲田大学戸山キャンパス)
- 尾田まゆみ・上畑智子・井上雅彦 (2011). 強度行動障害を呈する ASD 児の問題行動の頻度と機能の変化 日本行動分析学会第 29 回年次大会発表論文集(早稲田大学戸山キャンパス)
- 上畑智子・尾田まゆみ・井上雅彦 (2011). 自閉症児への排尿トレーニングの効果 日本行動分析学会第 29 回年次大会発表論文集(早稲田大学戸山キャンパス)
- 岡崎奈津・松尾里沙・井上雅彦 (2011). ASD 児におけるつまづき場面に対する対処行動の指導 日本行動分析学会第 29 回年次大会発表論文集(早稲田大学戸山キャンパス)
- 井上雅彦 (2011). 「ペアレントトレーニング」を地域での実践に広げるために—スタッフ養成の取り組みから 日本特殊教育学会第 49 回大会発表論文集(弘前大学文京町キャンパス)
- 上畑智子・井上雅彦・金森純平 (2011). 暴力と不登校を主訴とする発達障害児の支援事例の検討 日本特殊教育学会第 49 回大会発表論文集(弘前大学文京町キャンパス)
- 尾田まゆみ・井上雅彦 (2011). 強度行動障害を呈する特別支援学校児童の担任教師に対するコンサルテーション 日本特殊教育学会第 49 回大会発表論文集(弘前大学文京町キャンパス)
- 岡崎奈津・井上雅彦 (2011). 発達障害児の祖父母に対する母親の意識 日本特殊教育学会第 49 回大会発表論文集(弘前大学文京町キャンパス)
- 黒田美保**
Kuroda, M., Wakabayashi, A., Uchiyama, T., Yoshida, Y., Koyama, T., Kamio, Y. (2011). Determining differences in social cognition between high-functioning autistic disorder and other pervasive developmental disorders using new advanced “mind-reading” tasks. *Research in Autism Spectrum Disorders*, 5, 554-561.
- Inada, N., Koyama, T., Inokuchi, E., Kuroda, M., & Kamio, Y. (2011). Reliability and validity of the Japanese version of the Modified Checklist for Autism in Toddlers (M-CHAT). *Research in Autism Spectrum Disorders*, 5, 330-336.
- 稲田尚子・黒田美保・井口英子・神尾陽子 (印刷中) 日本語版反復的行動尺度修正版 (RBS-R) の信頼性・妥当性に関する検討 発達心理学研究
- 黒田美保・稲田尚子 (2012). Autism Diagnostic Observation Schedule (自閉

- 症診断観察検査)日本版の開発状況と今後の課題 精神医学, **54**, 427-433.
- Kuroda, M., Wakabayashi, A., Uchiyama, T., Yoshida, Y., Koyama, T., Kamio, Y. (2011). Determining differences in social cognition between high-functioning autistic disorder and other pervasive developmental disorders using new advanced “mind-reading” tasks. *Research in Autism Spectrum Disorders*, **5**, 554-561.
- 黒田美保 (印刷中). 第7章TEACCHにおける早期介入の実際 市川宏伸・内山登紀夫 (編) 発達障害への早期介入 中外医学社
- Kuroda, M. (2011). A Randomized Controlled Trial of a Cognitive-Behavioral Intervention for Emotion Regulation in Adults with High-Functioning Autism Spectrum Disorders. Exploring Autism Research Collaboration Between Japan and United States Joint Academic Conference on Autism Spectrum Disorders.
- Kuroda, M. (2011). Determining Sex Differences in the Social Cognition of Individuals with and without Autism Spectrum Disorders using Advanced “Mind-Reading” Tasks. 10th International Meeting for Autism Research (IMFAR).
- 萩原 拓
萩原拓 (2011). 状況に適した行動をする
辻井正次 (編) 特別支援教育 実践のこ
ツ金子書房 pp. 118-123.
- 萩原拓 (2012). 周囲との調整・調和を支える教師の手だて 北海道教育大学附属旭川幼稚園研究紀要, 63-65.
- 市川宏伸
鈴村俊介・市川宏伸 (2011). 小児期の不安障害に対する精神療法にエビデンスはあるのか?
市川宏伸 (2011). これからの発達障害の展望について 療育の窓, **156**, 1-10.
市川宏伸・太田昌孝・神尾陽子・清水康夫 (2011). 自閉症の医療について(座談会) かがやき(いとしご増刊), **543**, 2-25.
市川宏伸 (2011). 心の発達とは段階的 心と心がつながる子育てを 灯台, **608**, 22-29.
市川宏伸 (2011). 広汎性発達障害 山内俊雄・小島卓也・倉知正佳・鹿島晴雄 (編) 専門医をめざす人の精神医学 (第3版) 医学書院 pp. 542-547.
市川宏伸 (2011). 今、福祉・医療従事者に求められている発達障害児(者)の支援 WAM, **564**, 24-25.
加藤 敏・神庭重信・中谷陽二・武田雅俊・鹿島晴雄・狩野力八郎・市川宏伸 (編) (2011). 現代精神医学事典 弘文堂
市川宏伸 (2011). 発達障害の概念の流れ 日本発達障害ネットワーク (編) 発達障害年鑑 日本発達障害ネットワーク (JDD ネット)年報 VOL.3 明石書店 pp. 6-11.
田中英三郎・市川宏伸 (2011). 医学分野での発達障害の現状 日本発達障害ネットワーク (編) 発達障害年鑑 日本発達障

- 害ネットワーク(JDD ネット)年報 VOL.3
明石書店 pp. 46-54.
- 市川宏伸 (2011). 発達障害と総合福祉法
ノーマライゼーション, **31**, 30-31.
- 市川宏伸 (2011). 卒業後の子どもたちへの
支援の必要性 LD、ADHD & ASD, **41**, 36-39.
- 市川宏伸 (2011). 児童・青年期にみられる
精神疾患の概説 樋口輝彦・市川宏伸・
神庭重信・朝田 隆・中込和幸(編) 今日
の精神疾患治療指針 医学書院 pp.
288-292.
- 市川宏伸 (2011). チック障害、トゥレット
障害 樋口輝彦・市川宏伸・神庭重信・
朝田 隆・中込和幸(編) 今日の精神疾
患治療指針 医学書院 pp. 311-312.
- 市川宏伸 (2011). 司法精神医学と児童青年
精神医療 司法精神医学, **7**, 1.
- 市川宏伸 (2011). 医学の専門家の視点から
柘植雅義・箕 倫子・大石幸二・松村京
子(編)対人援助専門職のための発達障害
者支援ハンドブック 金剛出版 pp.
72-74.
- 小笠原恵**
- 伊藤友彦・小笠原恵・濱田豊彦・林安紀子
(2011). 気になる子どもへの支援 教育
出版
- 小笠原恵 (2011). うちの子、なんでできな
いの 文藝春秋
- 小笠原恵 (2011). 発達障害児の支援におい
て療育機関ができること—学校・家庭と
の連携を中心に 辻井正次(編著) 特別
支援教育 実践のコツ 金子書房 pp.
166-171.
- 小笠原恵 (2011). 選択における選択基準—
若澤・杉山(2011)へのコメント 行動分
析学研究, **25**, 147-149.
- 平澤 紀子・小笠原恵 (2011). 生活の向上
を目指した積極的行動支援の進展と課題
特殊教育学会, **48**, 157-166.
- 小笠原恵・太田智美 (2011). 行動問題を示
す自閉症スペクトラムへのアプローチ—
応用行動分析学の立場から 臨床発達心
理実践研究, **6**, 36-42.
- 矢島卓郎・小笠原恵 (2011). 言語表出の乏
しい障害児者の日常生活にAAC機器を
導入する効果の検討 科学研究費補助金
研究成果報告書, pp. 3-4.
- 平澤紀子・小笠原恵・佐藤圭吾・高津梓・
澤田英俊・吉野ゆかり (2011). 発達障害
児者の行動問題から教育・福祉の充実を
目指すPBS(5)—周囲が困る行動の低減
から対象者の適応・参加の支援へ 第49
回日本特殊教育学会発表論文集, **55**.
- 小野和歌奈・加藤慎吾・小笠原恵 (2011).
自閉症児の社会的行動の形成に関する研
究—要求充足者に対する接近行動の促進
から 第49回日本特殊教育学会発表論
文集, **283**.
- 名取瞳・原田晋吾・小笠原恵 (2011). 自閉
症児における活動レパトリの拡大に
関する一考察—余暇の過ごし方の変化を
通して 第49回日本特殊教育学会発表
論文集, **285**.
- 岡島美奈・前川圭一郎・小笠原恵 (2011).
自閉症児における援助要求行動の使い分
けに関する一考察—自力遂行が可能か否
かを判断する活動を通して 第49回日
本特殊教育学会発表論文集, **286**.
- 加藤慎吾・小笠原恵 (2011). PBSに基づ
く効果的な介入に関する一考察—支援者

の行動を維持している随伴性に焦点を当てて 第 49 回日本特殊教育学会発表論文集, 328.

小池晶子・末永統・小笠原恵 (2011). 知的障害児における指示従事行動の促進に関する研究—障害要因の検討と動機づけの視点から 第 49 回日本特殊教育学会発表論文集, 560.

前川圭一郎・小笠原恵 (2011). 自閉症幼児に対する要求言語行動の指導における先行子操作の検討—随伴関係の異なる環境利用型指導法と行動連鎖中断法との比較から 第 49 回日本特殊教育学会発表論文集, 595.

下山真平・末永統・小笠原恵 (2011). 自閉症児における金種の弁別と支払い行動の形成についての検討—刺激等価性の観点から 第 49 回日本特殊教育学会発表論文集, 647.

藤巻みのり・原田晋吾・小笠原恵 (2011). 自閉症児に対する同作法による学習の亀の形成が課題習得に及ぼす効果—応用行動分析的アプローチとの併用 第 49 回日本特殊教育学会発表論文集, 669.

内山登紀夫

内山登紀夫 (2011). TEACCH の考え方と
その実際 宮田広善 (編) 発達支援の
技法と理論 協同医書出版社 pp.
112-120.

内山登紀夫 (2011). アスペルガー症候群
神庭重信・中谷陽二他 (編) 現代精神医学
事典 弘文堂 pp. 14.

内山登紀夫 (2011). ウィング,L 神庭重
信・中谷陽二他 (編) 現代精神医学事典
弘文堂 pp. 87.

内山登紀夫 (2011). クレーン症状 神庭重
信・中谷陽二他 (編) 現代精神医学事典
弘文堂 pp. 262.

内山登紀夫 (2011). 自閉症スペクトラム
神庭重信・中谷陽二他 (編) 現代精神医学
事典 弘文堂 pp. 443.

Tanaka, K., Uchiyama, T., Endo, F.,
(2011). Informing children about their
sibling's diagnosis of autism spectrum
disorder: An initial investigation into
current practices. *Research in Autism
Spectrum Disorders*, 5(4), 1421-1429.

Kuroda, M., Wakabayashi, A., Uchiyama,
T., Yoshida, Y., Koyama, T., Kamio, Y.,
(2011). Determining differences in
social cognition between
high-functioning autistic disorder and
other pervasive developmental
disorders using new advanced
“mind-reading” tasks. *Research in
Autism Spectrum Disorders*, 5(1),
554-561.

内山登紀夫 (2011). 思春期から成人期の広
汎性発達障害 思春期から成人期の自閉
症スペクトラム 児童青年精神医学とそ
の近接領域, 52(4), 431-436.

中村和彦

Iwata, Y., Suzuki, K., Takei, N.,
Toulopoulou, T., Tsuchiya, K. J.,
Matsumoto, K., Takagai, S., Oshiro, M.,
Nakamura, K., Mori, N. (2011).
Jiko-shisen-kyofu (fear of one's own
glance), but not taijin-kyofusho (fear of
interpersonal relations), is an east
Asian culture-related specific

- syndrome. *Aust N Z J Psychiatry*, **45**, 148-152.
- Yokokura, M., Mori, N., Yagi, S., Yoshikawa, E., Kikuchi, M., Yoshihara, Y., Wakuda, T., Sugihara, G., Takebayashi, K., Suda, S., Iwata, Y., Ueki, T., Tsuchiya, K. J., Suzuki, K., Nakamura, K., Ouchi, Y. (2011). In vivo changes in microglial activation and amyloid deposits in brain regions with hypometabolism in Alzheimer's disease. *Eur J Nucl Med Mol Imaging*, **38**, 343-351.
- Suzuki, K., Sugihara, G., Ouchi, Y., Nakamura, K., Tsujii, M., Futatsubashi, M., Iwata, Y., Tsuchiya, K. J., Matsumoto, K., Takebayashi, K., Wakuda, T., Yoshihara, Y., Suda, S., Kikuchi, M., Takei, N., Sugiyama, T., Irie, T., Mori, N. (2011). Reduced acetylcholinesterase activity in the fusiform gyrus in adults with autism spectrum disorders. *Arch Gen Psychiatry*. **68**, 306-313.
- Nakamura, K., Iwata, Y., Anitha, A., Miyachi, T., Toyota, T., Yamada, S., Tsujii, M., Tsuchiya, K. J., Iwayama, Y., Yamada, K., Hattori, E., Matsuzaki, H., Matsumoto, K., Suzuki, K., Suda, S., Takebayashi, K., Takei, N., Ichikawa, H., Sugiyama, T., Yoshikawa, T., Mori, N. (2011). Replication study of Japanese cohorts supports the role of STX1A in autism susceptibility. *Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry*. **35**, 454-458.
- 村上隆
足立浩平・村上 隆 (2011). 非計量多変量解析法 主成分分析から多重対応分析へ 朝倉書店
- 村上 隆 (2011). テストの理論と大学入試の教育機能 東北大学高等教育開発推進センター(編) 高大接続関係のパラダイム転換と再構築 東北大学出版会 pp. 143-166.
- 村上 隆 (2011). 特別な構造をもつ2値データの相関行列の性質について 中京大学現代社会学部紀要, **5**, 107-124.
- Murakami, T. & Irie, Y. (2011). Spurious dimensions in the application of principal components analysis with oblique rotation to binary data. *Collection of Abstracts: IFCS Symposium and GfKI/DAGM Conference*, 147.
- 杉山登志郎
Kawakami, C., Ohnishi, M., Sugiyama, T., Someki, F., Nakamura, K., & Tsujii, M. (2012). The risk factors for criminal behaviour in high-functioning autism spectrum disorders (HFASDs): A comparison of childhood adversities between individuals with HFASDs who exhibit criminal behaviour and those with HFASD and no criminal histories. *Research in Autism Spectrum Disorders*, **6**, 949-957.
- Suzuki, K., Sugihara, G., Ouchi, Y., Nakamura, K., Tsujii, M., Futatsubashi, M., Iwata, Y., Tsuchiya,

- K. J., Matsumoto, K., Takebayashi, K., Wakuda, T., Yoshihara, Y., Suda, S., Kikuchi, M., Takei, N., Sugiyama, T., Irie, T., Mori, N. (2011). Reduced acetylcholinesterase activity in the fusiform gyrus in adults with autism spectrum disorders. *Arch Gen Psychiatry*, **68**, 306-313.
- Nakamura, K., Iwata, Y., Anitha, A., Miyachi, T., Toyota, T., Yamada, S., Tsujii, M., Tsuchiya, K. J., Iwayama, Y., Yamada, K., Hattori, E., Matsuzaki, H., Matsumoto, K., Suzuki, K., Suda, S., Takebayashi, K., Takei, N., Ichikawa, H., Sugiyama, T., Yoshikawa, T., Mori, N. (2011). Replication study of Japanese cohorts supports the role of STX1A in autism susceptibility. *Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry*, **35**, 454-458.
- Marui, T., Funatogawa, I., Koishi, S., Yamamoto, K., Matsumoto, H., Hashimoto, O., Jinde, S., Nishida, H., Sugiyama, T., Kasai, K., Watanabe, K., Kano, Y., Kato, N. (2011). The NADH-ubiquinone oxidoreductase 1 alpha subcomplex 5 (NDUFA5) gene variants are associated with autism. *Acta Psychiatr Scand.*, **123(2)**, 118-124.
- 杉山登志郎 (2011). 子ども虐待・子どもの命とところを守る 心と社会, **42**, 12-15.
- 杉山登志郎 (2011). 発達障害とアタッチメント障害 ト라우マティック・ストレス, **9**, 25-31.
- 内田裕之
- 明翫光宜・望月知世・内田裕之・辻井正次 (2011). 広汎性発達障害児の人物画研究 (1) : DAM 項目による身体部位表現の分析 小児の精神と神経, **51**, 157-168.
- Matsuzaki, J., Kagitani-Shimono, K., Goto, T., Sanefuji, W., Yamamoto, T., Sakai, S., Uchida, H., Hirata, M., Mohri, I., Yorifuji, S., & Taniike, M. (2012). Differential Responses of Primary Auditory Cortex in Autistic Spectrum Disorder with Auditory Hypersensitivity. *Neuroreport*, **23(2)**, 113-118.
- 内田裕之・辻井正次 (印刷中). 発達障害とともに成人期を生きるということ : ASD と ADHD を例に 教育と医学
- Myogan, M., Uchida, H., & Tsujii, M. (2011). The Cognitive Trait of ASD's : Developmental Change of Cognition by Aging. XX International Congress of Rorschach and Projective Methods Abstract Book, 171-172.
- Myogan, M., Uchida, H., & Tsujii, M. (2011). The Problem of Communication that Have People with Autistic Spectrum Disorder : from Relationship of Inquiry of Rorschach Test. XX International Congress of Rorschach and Projective Methods Abstract Book, 172-173.
- Uchida, H., Myogan, M., & Tsujii, M. (2011). CDI and Lambda of High-Functional Pervasive Developmental Disorder. XX International Congress of Rorschach and Projective Methods Abstract Book,

- 173-174.
- 石橋正浩・石塚友也・中谷真弥・内田裕之・豊田洋子 (2011). 投影法と心理臨床をつなぐために(2): スーパービジョンを通しての「a-ha 体験」 日本心理臨床学会第30回秋季大会発表論文集.
- 岩永竜一郎
- 岩永 竜一郎 (2011). 感覚刺激への過剰反応・過敏 辻井正次 (編) 特別支援教育実践のコツ 金子書房 pp. 85-91.
- 岩永 竜一郎 (2011). ペアレントトレーニング、ソーシャルストーリー、認知行動療法 石川齊・古川宏 (編) 作業療法技術ガイド 文光堂 pp. 762-766.
- 岩永竜一郎・松坂哲應・本山和徳・松崎淳子・円城寺しづか・日野出悦子 (2011). 3歳児健診で発達障害児スクリーニング率の変化 長崎作業療法研究, **6**, 9-13.
- 岩永竜一郎・松坂哲應・本山和徳・松崎淳子・円城寺しづか・日野出悦子 (2011). 長崎県内の1歳6ヶ月M-CHAT導入による発達障害児スクリーニングの効果 長崎作業療法研究, **6**, 15-19.
- 岩永竜一郎・谷口未央子・松坂哲應・本山和徳・松崎淳子・円城寺しづか・日野出悦子 (2011). 3歳児健診における発達障害児スクリーニングの効果 長崎作業療法研究, **6**, 21-31.
- 和田健嗣・岩永竜一郎 (2011). 5歳児健診における発達障害児スクリーニングの評価システム構築および有効性の検討 長崎作業療法研究, **6**, 33-39.
- 岩永 竜一郎 (2011). 遊びと脳の発達 作業療法ジャーナル 6月増刊号, 778-782.
- 岩永 竜一郎 (2011). 発達障害への早めの気づきを—思春期・青年期の支援からチャイルドヘルス, **14**, 1674-1674.
- 岩永 竜一郎 (2011). 感覚探究行動とそれへの対応 アスペハート, **27**, 72-75.
- 岩永 竜一郎 (2011). 新しい感覚統合検査 JPAN アスペハート, **28**, 102-105.
- 岩永 竜一郎 (2011). 大人の発達障害支援の現状と課題 心と社会 (日本精神衛生会), **42**, 24-30.
- 行廣隆次
- 吉田友子・行廣隆次・内山登紀夫・宇野洋太・蜂矢百合子 (2011). 高機能自閉症スペクトラムの子どもたちの診断名認知に関する大規模実態調査 第107回日本精神神経学会学術総会
- Ito H, Tani I, Yukihiro R, Adachi J, Hara K, Ogasawara M, Inoue M, Kamio Y, Nakamura K, Uchiyama T, Ichikawa H, Sugiyama T, Hagiwara T, Tsujii M (in press). Validation of an Interview-Based Rating Scale Developed in Japan for Pervasive Developmental Disorders. *Research in Autism Spectrum Disorders*.
- 谷伊織
- 望月直人・岡田涼・谷伊織・大西将史・辻井正次 (2011). 中学生における非行行為の経験率—単一市内における全数調査から 精神医学, **53**, 667-670.
- Nakai, A., Miyachi, T., Okada, R., Tani, I., Nakajima, S., Onishi, M., Fujita, C., Tsujii, M. (2011). Evaluation of the Japanese version of the Developmental Coordination Disorder Questionnaire

- as a screening tool for clumsiness of Japanese children. *Res Dev Disabil*, 32, 1615-1622.
- 松岡弥玲・岡田涼・谷伊織・大西将史・中島俊思・辻井正次 (2011). 養育スタイル尺度の作成: 発達の变化と ADHD 傾向との関連から 発達心理学研究, 22, 179-188.
- 並川努・谷伊織・脇田貴文・熊谷龍一・中根愛・野口裕之・辻井正次 (2011). Birleson 自己記入式抑うつ評価尺度 (DSRS-C)短縮版の作成 精神医学, 53, 489-496.
- 岡田 涼・大西 将史・谷 伊織・中島俊思・辻井正次 (2011). 日本の小中学生における ADHD 傾向—教師評定と保護者評定の違い 精神医学, 53, 249-255.
- 森山雅子・杉本英晴・谷伊織・五十嵐素子 (2011). 女子学生の学業成績に抑うつと睡眠—覚醒パターンが与える影響 精神医学, 53, 257-262.
- 大西将史・中島俊思・松岡弥玲・谷伊織・永田雅子・野村香代・吉橋由香・神谷美里・岡田涼・辻井正次 (2011). 保育記録による発達尺度の標準得点(2)—活動領域, 対人領域および情緒領域の検討 小児の精神と神経, 51, 247-259.
- 谷伊織・大西将史・中島俊思・松岡弥玲・永田雅子・野村香代・吉橋由香・神谷美里・岡田涼・辻井正次 (2011). 保育記録による発達尺度の標準得点(1)—生活領域, 言語領域および運動領域の検討. 小児の精神と神経, 51, 231-245.
- 鈴木麻揚, 谷伊織, 大久保豪, 池田若葉, 北村文彦, 横山和仁 (2011). 労働者のメンタルヘルス不調事例にみられた最初の徴候と、当事者があればよかったと思った早期支援の内容 精神科治療学, 26, 913-919.
- 韓順子・早川史子・谷伊織 (2011). 女子高校生における飲料摂取の地域別比較 消費者教育, 31, 117-127.
- 谷伊織・並川努・野口裕之 (2011). ビッグファイブと自己の特性 榎本博明 (編) 自己心理学の最先端 あいり出版 pp. 44-53.
- 野田航・伊藤大幸・藤田知加子・中島俊思・瀬野由衣・岡田涼・林陽子・谷伊織・高柳伸哉・辻井正次 (2012). 日本語版 Strengths and Difficulties Questionnaire 親評定フォームについての再検討: 単一市内全校調査に基づく学年・性別の標準得点とカットオフ値の算出 精神医学, 54, 383-391.
- 岡田涼・谷伊織・大西将史・中島俊思・辻井正次 (2012). Child Social Preference Scale 日本語版の作成: 発達の变化と問題行動との関連 心理学研究, 83, 44-50.
- 高柳伸哉・伊藤大幸・岡田涼・中島俊思・大西将史・染木史緒・野田航・谷伊織・林陽子・辻井正次 (2012). 一般中学生における自傷行為のリスク要因: 単一市内全校調査に基づく検討 臨床精神医学, 41, 87-95.
- Suguru Okubo, Kazuhito Yokoyama, Mayo Suzuki, Iori Tani, Wakaha Ikeda, Fumihiko Kitamura (2012). Difficulties in Receiving a Medical Consultation among Japanese Workers with Mental Health Problems. *Journal of Occupational Health*, 54, 51-55.
- 谷伊織・並川努・野口裕之 (印刷中). 5 因

- 子モデルの周辺 浮谷秀一 (監修) パーソナリティ心理学ハンドブック 福村出版
- 並川努・谷伊織・脇田貴文・熊谷龍一・中根愛・野口裕之 (印刷中). Big Five 尺度短縮版の開発と信頼性と妥当性の検討 心理学研究
- 林陽子・岡田涼・谷伊織・辻井正次 (印刷中). 広汎性発達障害における強迫関連症状 児童青年精神医学とその近接領域
- 中島俊思・岡田涼・松岡弥玲・谷伊織・大西将史・辻井正次 (印刷中). 発達障害児の保護者における養育スタイルの特徴 発達心理学研究
- Ito H, Tani I, Yukihiro R, Adachi J, Hara K, Ogasawara M, Inoue M, Kamio Y, Nakamura K, Uchiyama T, Ichikawa H, Sugiyama T, Hagiwara T, Tsujii M (in press). Validation of an Interview-Based Rating Scale Developed in Japan for Pervasive Developmental Disorders. *Research in Autism Spectrum Disorders*.
- 林陽子・吉橋由香・岡田涼・谷伊織・大西将史・松本かおり・土屋賢治・辻井正次 (印刷中). Leyton Obsessional Inventory-Child Version (LOI-CV) 日本語版作成の試み 児童青年精神医学とその近接領域
- 伊藤大幸
- Ito, H., Yamauchi, H., Kaneko, H., Yoshikawa, T., Nomura, K., & Honjo, S. (2011). Prefrontal overactivation, autonomic arousal, and task performance under evaluative pressure: A near-infrared spectroscopy (NIRS) study. *Psychophysiology*, *48*, 1563-1571.
- Ito H, Tani I, Yukihiro R, Adachi J, Hara K, Ogasawara M, Inoue M, Kamio Y, Nakamura K, Uchiyama T, Ichikawa H, Sugiyama T, Hagiwara T, Tsujii M (in press). Validation of an Interview-Based Rating Scale Developed in Japan for Pervasive Developmental Disorders. *Research in Autism Spectrum Disorders*.
- Kaneko, H., Yoshikawa, T., Nomura, K., Ito, H., Yamauchi, H., Ogura, M., & Honjo, S. (2011). Hemodynamic changes in the prefrontal cortex during digit span task: A near-infrared spectroscopy study. *Neuropsychobiology*, *63*, 59-65.
- 野田航・伊藤大幸・藤田知加子・中島俊思・瀬野由衣・岡田涼・林陽子・谷伊織・高柳伸哉・辻井正次 (2012). 日本語版 Strengths and Difficulties Questionnaire 親評定フォームについての再検討: 単一市内全校調査に基づく学年・性別の標準得点とカットオフ値の算出 精神医学, *54*, 383-391.
- 大嶽さと子・伊藤大幸・染木史緒・野田航・林陽子・中島俊思・高柳伸哉・瀬野由衣・岡田涼・辻井正次 (印刷中). 一般中学生における自傷行為の経験および頻度と抑うつとの関連: 単一市内全校調査に基づく検討 精神医学
- 高柳伸哉・伊藤大幸・岡田涼・中島俊思・大西将史・染木史緒・野田航・谷伊織・林陽子・辻井正次 (2012). 一般中学生に

- における自傷行為のリスク要因：単一市内
全校調査に基づく検討 臨床精神医学,
41, 87-95.
- 高柳伸哉・伊藤大幸・大嶽さと子・野田航・
大西将史・中島俊思・望月直人・染木史
緒・辻井正次 (印刷中). 小中学生におけ
る欠席行動と抑うつ、攻撃性との関連
臨床精神医学
- 染木史緒
アラン.S.カウフマン・高橋知音・染木史
緒・石隈利紀 (2012). 学習困難のある
子ども達を援助する 21 世紀の「賢いア
セスメント」 LD 研究, 21, 15-23.
- Kawakami, C., Ohnishi, M., Sugiyama,
T., Someki, F., Nakamura, K., &
Tsuji, M. (2012). The risk factors for
criminal behaviour in
high-functioning autism spectrum
disorders (HFASDs): A comparison of
childhood adversities between
individuals with HFASDs who
exhibit criminal behaviour and those
with HFASD and no criminal
histories. *Research in Autism
Spectrum Disorders*, 6, 949-957.
- 高柳伸哉・伊藤大幸・岡田涼・中島俊思・
大西将史・染木史緒・野田航・谷伊織・
林陽子・辻井正次 (2012). 一般中学生に
おける自傷行為のリスク要因：単一市内
全校調査に基づく検討 臨床精神医学,
41, 87-95.
- 高柳伸哉・伊藤大幸・大嶽さと子・野田航・
大西将史・中島俊思・望月直人・染木史
緒・辻井正次 (印刷中). 小中学生におけ
る欠席行動と抑うつ、攻撃性との関連
臨床精神医学
- 染木史緒 (2011). 発達障害のアセスメン
ト 小林正幸・奥野誠一 (編著) ソー
シャルスキルの視点からみた学校カウ
ンセリング ナカニシヤ出版
- Jitendra, A. K., Star, J. R., Rodriguez,
M., Lindell, M., & Someki, F. (2011).
Improving students' proportional
thinking using schema-based
instruction. *Learning and Instruction*,
21, 731-745.
- Someki, F., Jitendra, A. K., & Kelley, M.
B. (2012). Behavioral and academic
characteristics of fetal alcohol
spectrum disorders among children
with attention-deficit/hyperactivity
disorder. Paper presented at the
American Educational Research
Association Annual Convention,
Vancouver, Canada.
- Jitendra, A. K., Star, J. R., Dupuis, D. N.,
Rodriguez, M., & Someki, F. (2012).
Effectiveness of schema-based
instruction for improving
seventh-grade students' proportional
reasoning: A randomized experiment.
Paper presented at the American
Educational Research Association
Annual Convention, Vancouver,
Canada.
- Someki, F. (2011). A relation between
pervasive developmental disorders and
conduct disorder (CD): Risk factors of
developing CD. Presentation at the
16th World Congress of the
International Society for Criminology,

- Kobe, Japan.
- 大西将史・染木史緒・望月直人・中島俊思・大嶽さと子・中村和彦・辻井正次 (2011).
Conners' Adult ADHD Rating Scale 日本語版の作成 (1): 予備的検討 日本教育心理学会第53回総会
- Someki, F., Tsujii, M., Mochizuki, N., & Nakajima, S. (2011). Developing the Japanese Version of the VABS-II (2): Examining the Validity by Confirmatory Factor Analyses. Paper presented at the International Meeting for Autism Research 2011, San Diego, CA.
- Mochizuki, N., Nakajima, S., Tani, I., Someki, F., & Tsujii, M., (2011). The Japanese version of the modified checklist for autism in toddlers (M-CHAT) screening system for recognizing ASD children's early support needs through mandatory health checkup for 18-months-old toddlers. Paper presented at the International Meeting for Autism Research 2011, San Diego, CA.
- Someki, F., Jitendra, A. K., & Kelley, M. B. (2011). Identifying the characteristics of fetal alcohol spectrum disorders (FASD) among children with attention-deficit/hyperactivity disorder. Paper presented at the Council for Exceptional Children 2011 Convention & Expo, Washington D. C.
- Jitendra, A. K., Star, J. R., Rodriguez, M., Lindell, M., & Someki, F. (2011). Enhancing seventh grade students' proportional thinking using schema-based instruction. Paper presented at the American Educational Research Association Annual Convention, New Orleans, LA.
- H. 知的財産権の出願・登録状況
特になし

II. 分担研究報告

Vineland 適応行動尺度日本版の標準化と信頼性・妥当性の検証

- 研究代表者 辻井正次 中京大学現代社会学部
分担研究者 行廣隆次 京都学園大学人間文化学部
分担研究者 谷伊織 東海学園大学人文学部
分担研究者 伊藤大幸 浜松医科大学子ども心の発達研究センター
分担研究者 黒田美保 淑徳大学総合福祉学部
分担研究者 内山登紀夫 福島大学大学院人間発達文化研究科
分担研究者 萩原拓 北海道教育大学旭川校
分担研究者 村上隆 中京大学現代社会学部
分担研究者 小笠原恵 東京学芸大学総合教育科学系特別支援科学講座
分担研究者 原幸一 徳島大学総合科学部
分担研究者 井上雅彦 鳥取大学医学系研究科臨床心理学講座
分担研究者 岩永竜一郎 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
分担研究者 染木史緒 浜松医科大学子ども心の発達研究センター
分担研究者 中村和彦 浜松医科大学精神神経科
分担研究者 市川宏伸 東京都立小児総合医療センター
分担研究者 杉山登志郎 浜松医科大学児童青年期精神医学講座
分担研究者 内田裕之 大阪大学連合小児発達学研究科

研究要旨

本研究では、Vineland 適応行動尺度第二版（VABS-II）日本版の標準化および信頼性・妥当性検証のための調査を行った。初年度は日本版の翻訳を行い、バックトランスレーションにより翻訳精度を確認した上で、標準化サンプルとして一般群からのデータ収集を開始した。二年度目は妥当性検証のため、発達障害・知的障害等の診断を受けている臨床群からのデータ収集を開始した。最終年度は再検査信頼性・評定者間信頼性および基準関連妥当性を検証するためのデータを収集した。

0歳から92歳までの1367名の一般群サンプルから、94の年齢区分ごとの信頼できる標準値を得た。また、VABS-IIは高い再検査信頼性・評定者間信頼性を有し、外在基準とも高い関連を有することが示された。さらに、計259名からなる臨床群のスコアプロフィールから、VABS-IIが発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害）、知的障害、視聴覚障害を有する者の適応上の困難を明確に捉えられることが明らかになった。

<研究協力者>

平島 太郎

名古屋大学大学院教育発達科学研究科

安永和央

名古屋大学大学院教育発達科学研究科・日
本学術振興会

安達潤

北海道教育大学旭川校

松本かおり

浜松医科大学子どもこころの発達研究セ
ンター

野村和代

浜松医科大学児童青年期精神医学講座

白石 雅一

宮城学院女子大学発達臨床学科

高橋 信子

NPO 法人発達支援研究センター

増田 貴人

弘前大学教育学部家政教育学科

神尾 陽子

国立精神・神経センター精神保健研究所

稲田 尚子

国立精神・神経センター精神保健研究所

野呂 文行

筑波大学障害科学系

梅永 雄二

宇都宮大学教育学部特別支援教育専攻

遠藤 太郎

新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学
分野

長崎 勤

筑波大学障害科学系

渡邊 知子

浜松医科大学精神科臨床心理

高橋 知音

信州大学教育学部教育科学講座

清水 聡

福井県立大学学術教養センター

水内 豊和

富山大学人間発達科学部

明翫 光宣

東海学園大学

加戸 陽子

関西大学文学部心理学専修

櫻井 秀雄

関西福祉科学大学社会福祉学部

千原 雅代

天理大学人間学部

井澤 信三

兵庫教育大学大学院臨床・健康教育学系

木谷 秀勝
山口大学教育学部附属教育実践総合センター

森 健二
徳島大学医学部

松井 剛太
香川大学教育学部発達臨床コース

七木田 敦
広島大学大学院教育研究科

佐藤 智恵
神戸親和女子大学

上村 眞生
西南女学院大学

中庭 洋一
なかにわメンタルクリニック

佐藤 晋治
大分大学教育福祉科学部

井伊 暢美
大分大学教育福祉科学部附属教育実践総合センター

水間 宗幸
九州看護福祉大学社会福祉学科

金澤 忠博
大阪大学大学院人間科学研究科行動生態学講座

大西 彩子
甲南大学文学部

武藏 博文
香川大学教育学部

田中 恭子
益城病院

A. 研究目的

本研究では、Vineland 適応行動尺度第二版（VABS-II）日本版の標準化および信頼性・妥当性検証のための調査を行ってきた。

発達障害児者への具体的な支援計画の策定や行政サービスの実施を考える上で、個々の支援ニーズを的確に把握することが必要となる。しかし、国内では発達障害児者の支援ニーズを客観的に把握するための基本的なツールが開発・普及されておらず、もっぱら知的機能に基づいた評価のみが行われてきた現状がある。国際的にはすでに障害程度は知能指数（IQ）だけでなく、適応行動（adaptive behavior）の観点からも評価されるが、日本ではまだ障害の程度についてはIQが基準となっており、対人関係や社会性など日々の生活や行動上の適応の困難さが明らかでもIQが高いと評価されない。そのため、知的機能以外の面で様々な生活上の困難を示す発達障害児者が、必要な支援を受けられないという不都合が生じている。そこで、本研究では、発達障害児者の実際の適応状況の把握を可能とするVABS-II 日本版を開発し、その標準化および妥当性検証のための調査を実施した。

VABS (Sparrow et al., 1984) および

VABS-II (Sparrow, Cicchetti, & Balla, 2005) は、知的障害、自閉症スペクトラム障害 (以下 ASD)、注意欠如/多動性障害などの様々な障害を抱える者の社会生活への適応度の評価に用いられており、多くの医療・教育・福祉機関で使用されている (Tomanic et al., 2007)。研究において使用されることも多く、Klin et al. (2007) は、ASD の障害特性と行動特性の関連に関して、VABS-II と現在 ASD 診断のゴールド・スタンダードといわれる自閉症診断観察スケジュール (ADOS) を用いた研究を行っている。

原版の VABS-II は、0～90 歳までの 3695 名から得たデータをもとに標準化されている。適応行動は低年齢でその発達が速いことから、低年齢ほど多くのデータが集められている。さらに、標準化のためのサンプルに加え、障害をもつ人の適応行動評価の妥当性を検討するために、以下の分類の臨床群からもデータを収集し、それぞれの障害ごとに領域・下位領域の得点プロフィールがまとめられている。

- ・注意欠陥多動性障害 (ADHD)
- ・自閉症 (発語なし)
- ・自閉症 (発語あり)
- ・情緒・行動障害 (emotional or behavioral disturbance)
- ・視覚障害
- ・聴覚障害
- ・学習障害
- ・精神遅滞 (軽度)
- ・精神遅滞 (中等度)
- ・精神遅滞 (重度)

臨床群のサンプルに基づいて作成された障害ごとのプロフィールによって、一般群との比較のみならず、それぞれの障害における適応行動発達のパターンに照らし合わせた、より詳細な分析が可能となっている。

このように、VABS-II は大規模かつ詳細な調査に基づいて標準化されており、そのデータがこの尺度の有用性を支えている。日本においても、有用な尺度を作成するためには同様の大規模調査を行い、標準化および妥当性検証の手続きを行う必要がある。ただし、単年度でこの規模の調査を行うことは難しいため、2009 年度においては標準化のための一般群データ、2010 年度は妥当性検証のための臨床群データ、2011 年度は再検査信頼性・評定者間信頼性や基準関連妥当性の検証のためのデータを収集してきた。データ収集にあたっては原著者の助言を得た上で綿密な調査計画を作成し、3 年間でほぼ計画通りのデータ収集を完了した。

本報告では、3 年間にわたる調査で得られた大規模データについて 3 つの観点から分析を行った結果を報告する。

第一に、0 歳から 92 歳までの全年代にわたる一般群 1367 名のデータから、94 の年齢区分ごとの標準値を算出した。さらに、この標準値に基づいて、年齢区分ごとに素点を標準得点 (ウェクスラー式知能検査における IQ と同様、年齢区分における相対的位置を示す得点) に換算するための数表を作成した。これによって、VABS-II 日本版を適用して、あらゆる年代の対象者の適応行動のアセスメントを共通の基準で行うことが可能となった。

第二に、尺度の信頼性について、内的整合性、再検査信頼性、評定者間信頼性とい

う3つの観点から総合的に検討を行った。内的整合性は、尺度を構成する複数の項目同士の関連の程度を意味する。再検査信頼性は、同一の検査を一定の期間を空けて二度実施したときの得点の相関の程度を指す。評定者間信頼性は、異なる評定者が同一の対象者に検査を実施したときの得点の相関の程度を意味する。これら3つの側面から検討を行うことで、項目間の測定対象のズレによる誤差、時間的な変動による誤差、評定者の違いによる誤差という3種類のランダム誤差の程度を総合的に把握することが可能となり、測定尺度としての信頼性を正確に評価することができる。

第三に、尺度の妥当性について、年齢・月齢による推移、因子構造、基準関連妥当性、臨床群のスコアプロフィールという3点から検討した。VABS-IIは適応行動の発達を評価する尺度であるため、その得点は年齢・月齢とともに徐々に上昇していくことが想定される。この想定を検証するため、年齢・月齢にともなう得点の推移を検討した。因子構造については、原版において想定される二次因子構造が日本人のデータにも適用可能か否かを確認的因子分析によって検証した。基準関連妥当性については、国内で開発・標準化された適応行動の測定尺度である旭出式社会適応スキル検査、国際的に広く利用される不適応問題の測定尺度である Child Behavior Check List (CBCL)、適応行動と関連が深い知的能力 (IQ) および自閉症特性 (広汎性発達障害日本自閉症協会評定尺度; PARS) との関連から多角的に検討した。さらに、臨床群として、知的障害、自閉症スペクトラム障害 (ASD)、ADHD、視聴覚障害のデータを

収集し、各群のスコアプロフィールから、VABS-II が様々な障害による適応上の困難を的確に把握しうるかを検討した。

B. 方法

1. VABS-II 日本版の開発

本事業が開始される前年度の 2008 年度より、VABS-II の翻訳と日本版の開発を開始した。まず分担研究者の黒田および研究協力者の田中によって原文を忠実に翻訳した翻訳原案を作成した。この原案をもとに、研究班全体で訳語の確認や生活習慣や文化の合わない記述について、原版と照らし合わせながら確認を行い改訂していった。また、日本において必要と考えられる事柄については新たに項目を追加した。原版からの主な変更点を Table 1 に示す。文法、文字などの言語形態の違いによる変更が大部分であった。また、下位領域身辺自立では、スプーン・フォーク・ナイフに関する項目を、箸に関する項目に変更した。その他、項目内の人名、貨幣などの記述も日本のものに変更した。

こうして作成された VABS-II の日本版について、バックトランスレーションを行い、原著者の確認及び使用許諾を得た。また、後述するように、VABS-II は各下位領域の中で比較的獲得の容易な行動から難しい行動へと、項目の難易度に沿った項目順となっている。この項目順についても、日本の調査における測定値に基づいて再検討を行う必要があると考えられたため、項目順の再配置について原著者に確認と承諾を得た。

本研究では、このようなプロセスを経て開発された VABS-II 日本版を用いて調査を実施した。

2. 対象者

本研究では、VABS-II 日本版の標準化サンプルとして一般群 1367 名のデータを収集した。また、尺度の信頼性・妥当性検証のために一般群延べ 130 名と発達障害・知的障害の診断を受けた臨床群 259 名のデータを収集した。

一般群については、地域の偏りが少なくなるよう全国 28 都道府県において調査を実施した。調査の開始前に以下の 3 項目について尋ね、全てが「いいえ」であるもののみを対象に面接を実施した。

- ① これまでに頭部外傷を受けて、意識がなくなったことがありますか？
- ② これまでに学習障害、ADHD（注意欠陥多動性障害）、情緒障害などを指摘されたことがありますか？
- ③ これまでに神経の病気をしたことがありますか？（例：てんかんなど）

臨床群については、全国 28 都道府県の医療・心理・教育機関を受診し、熟練した精神科医により DSM-IV の診断基準に基づいて何らかの発達障害（ASD、ADHD、LD）または知的障害の診断を受けた 259 名が調査の対象者となった。

一般群および臨床群のサンプルに関する詳細は結果の項に後述する。

3. 回答者

本研究で日本版の開発を行う VABS-II の Survey Interview Form（面接調査フォーム）の回答者には、対象者の日常をよく知っている成人が選ばれる。対象者が若年の

場合は両親、養育者などの保護者が回答者となるケースが多い。また、対象者が成人の場合には、配偶者、成人の家族などが考えられる。対象者が家族と同居していない場合には、対象者の日常を観察できる立場にいる人物（施設職員、カウンセラー、職場の上司など）が回答者に選ばれることもある。本研究においても、同様の基準を満たす回答者からの回答を得た。

4. 実施方法

VABS-II の面接調査フォームでは、半構造化面接のスタイルをとっている。これは、記録用紙に書いてある各項目をそのまま読んで質問していくのではなく、全体的な会話から次第に詳細事項へと移行するという流れで、自然な会話の中で各項目について質問していく方法である。不適応行動領域を除いて、各下位領域の項目は適応行動の発達段階に沿って並んでいるが、質問項目が多少前後しても構わないとされている。また、ひとつの行動がその程度によって複数の質問項目に分けられている場合（例えば、15 分話を聞く、30 分話を聞くなど）、一つの話題の中で複数の項目をスコアすることも可能になる。さらに、半構造化面接法では、さまざまな形で回答者に質問していくことによって、対象者のより正確な情報を聞き出すことが出来る。面接時間はマニュアルでは 20～60 分とされているが、対象者の年齢、障害のコンディションなどによって面接時間がそれより長くなることもある。

調査を実施する面接者に対しては、1 時間～2 時間程度の研修会を設け、面接の方法や、データの処理の仕方、個人情報